

## 令和5年度 第2回生活支援・介護予防体制整備推進協議会 議事録

日 時 令和5年11月16日(木) 13:30~15:00

場 所 刈谷市役所 701会議室

出席者:

区 分	所 属	名 前
生活支援コーディネーター(S・C)	刈谷富士松地域包括支援センター	生島謙一郎
	刈谷雁が音地域包括支援センター	伴このみ
	刈谷中部地域包括支援センター	倉川叔子
	刈谷中央地域包括支援センター	加藤桂生(代理)
	刈谷依佐美地域包括支援センター	千葉伸一
	刈谷朝日地域包括支援センター	鈴木健司
各種団体を代表する者 (民間企業・NPO法人・協同組合・ボランティア)	株式会社豊田自動織機	鈴木智晴
	NPO法人 我がまちの縁側	野島美智子
	かりや愛知中央生活協同組合	林孝志
	あいち中央農業協同組合	杉浦弘美(欠)
	刈谷市民ボランティア活動センター	米田正寛
民生委員	刈谷市民生委員	塚本裕章
民生委員	刈谷市民生委員	深谷由美子
社会福祉協議会の職員(社会福祉法人)	刈谷市社会福祉協議会	川口剛史
市の職員	刈谷市役所 長寿課	杉山文章
オブザーバー	刈谷市基幹型地域包括支援センター	鈴木敦史(欠)
アドバイザー		塚本鋭裕

### 1 議 題

#### (1) 令和5年度第1回の推進協議会の振り返り (資料1の議題1を説明)

発言委員等	意見
委員	・ 制度としてはとてもいいと思う。市民ボランティア活動センターは、高齢者の個人に対してのボランティアは行っていない。「病院や理容室に行きたいが、車がないから行くことができない。どうにかできないか」といった相談もあり、制度として必要だと感じている。
会長	・ 社会福祉協議会にはそういった問い合わせがあるか。
委員	・ 問い合わせはほぼないが、潜在的なニーズがあることは耳にしたことがある。社協ボランティアセンターも福祉に特化した団体に対する支援が中心なので、一人一人のケースにはなかなか対応できないので、こういう活動は必要だと感じている。
アドバイザー	・ 豊明市の事業のサポーター数の年齢構成はわかるか。
事務局	・ 大部分が高齢者。理由としては、日中の活動であることが多いため。サポーターのほとんどが高齢者で、その方々が高齢者を支えている。 ・ 元気なうちに事業に参加することで、介護予防活動にもつながる。

発言委員等	意見
委員	・ 数年前から西尾市でも無料で生活支援の事業をやっている。その事業に携

発言委員等	意見
	<p>わっている人の話では、地域のつながりが強いから無料で事業をやれているのではないかという話だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話を聞くことに重点を置いているボランティアの場合は、事前に傾聴講座を受けて、心構えを身に着けたうえで活動に取り組む。そのように、分野に応じて講座や研修会等を作りながら、サービスの質の向上を図っている。</li> <li>・ ボランティアの報告会も行っている。</li> </ul>

## (2) 住民参加型支え合い事業の深堀（資料1の議題2を説明）

発言委員等	意見
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 別の会議に参加したときも、地域のつながりが希薄、自治会の加入率が下がるといった課題が上がった。人が生きていくためには、支え合っていないといけないので、金銭で成り立つ関係ではなく、住民参加型支え合い事業は必要だと思う。資料の中で、在宅で生活するにはなくてはならないという利用者さんの声も実際にある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西尾市の支え合い事業に携わっている人の話では、実際にトラブルもあるとのこと。利用者によっては、サポーターを近所の人にやってもらいたい、という声もあればその反対もある。コーディネートの際に、当事者とご家族とお話をするが、そこで第三者に入ってもらおう。そこで依頼内容を全員で共有し、どこまでやるのかを決めないと、話が食い違ってしまうためそれを防ぐためとのこと。</li> <li>・ 普段から近所づきあいがある人がサポーターとして登録をして、継続して利用者に関わるということもいいとのこと。</li> </ul>
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支え合いの仕組みは必要になってきている。地域包括ケアでいうところの互助のネットワークである。地域の支え合いの仕組みを作っていくうえで、サポーターの役割を担ってもらえる近隣の住民を掘り起こし、支え合いの意識付けをしている。</li> <li>・ 生活支援の事業は、都心部の場合だと有料サービスになってくると思われる。理想は地域の支え合いの中で作っていけるといい。</li> <li>・ 今後、事業として形成していくときに核となる機関が重要。住民が一から十までやれるわけではないので、サポーターの養成や、マッチング、サポーターの保険をどうするかなどをどのように組織を作り上げていくか考える必要がある。</li> <li>・ もう一つは、生活支援コーディネーターの役割とどう結びつけるかということを考える必要がある。そのうえで利用者は、このサービスがすべてではなく複数あるサービスの一つであることを念頭に置く必要がある。</li> <li>・ 民間企業のサービスや学生ボランティア、助け合いの仕組みはいろいろあるので、どれを選ぶか、という選択肢が利用者にはあっていい。だからこそ、この仕組みを作るだけでなく、ガイドブックで生活を支えるメニューをいくつか挙げていくことが必要。</li> <li>・ 生活支援の中で、ニーズとサービスが結びついていないこともあるので、仕組みの再構築のきっかけとして、この事業は良い。しかし、具体的に展開していくためには整理がまだ必要。</li> </ul>

### (3) 地域資源の把握・整理（資料1の議題3①・②を説明）

発言委員等	意見
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源を整理することで、高齢者が趣味的な活動を行うサークル・クラブにつながり、会員数が増え、担い手問題も解決するかもしれない。</li> <li>地域資源の把握・整理には、市とSCの連携が大事だと考えられるが、SC側の意見としてはどうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源の把握は大変ではあるが、やりたいことではあった。しかし、地域資源は、それぞれ市の担当課が違う。本日は、調査でエアロビクス兼ヨガ講師の方と話した。情報発信はまとめてわかりやすくなれば、案内もしやすくなる。</li> <li>調査してわかったこととして、入会費は500円。保険は1年間で1,000円、月会費600円。利用者の中には、曜日ごとに行くクラブを分けている方もいる。委員、包括職員として調査をして把握することで、高齢者へ案内する際に生きてくるものなので、頑張りたい。</li> </ul>
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>趣味的活動や総合型スポーツクラブなどに、どれくらい参加しているか、掛け持ちしている人はどのくらいいるかなど把握してみてもいいのではないかと。趣味的活動が認知症予防につながるというデータが出ている。その中でも6種類位使っている人は、より効果が出ている。積極的に使っている人は何種類位使っているかをインタビューできるといい。また、クラブなどに参加した理由や経緯を把握すると、次やろうとしている人への参加促進にもつながる。いきいきクラブの参加率がどこも下がっている一方で、他市で参加率が高いところは、介護予防教室を開いているところが多い。そのことから、刈谷市のいきいきクラブも健康体操などを取り入れることで、参加率が上がるのではないかと。</li> <li>オンライン体操教室等について、高齢者の7、8割のスマホ所持者のうちアプリ等を使える高齢者は25%前後。ツールがせっかくあるのだから、スマホ教室等と結びつけ、利用できるようにすると効果的ではないかと。</li> </ul>

### (4) 第2層生活支援コーディネーター活動報告（資料1の議題4 資料2を説明）

発言委員等	意見
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>サロンの活動を軸に、地域づくりに関心がある企業を結びつけていた。関心があってもどう動いていいかわからない団体を地域アセスメントの中で、拾い上げており、そこに包括としての役割が出ていた。できることからやるのもいいし、それをきっかけに広がっていくといい。例えば、介護老人保健施設かりやと地域の交流活動の件もそうだが、こども会と長期休みを利用して交流するなど、徐々に地域と混在一体化していくことで、地域の拠点となるのではないかと。できることからやっていくことは、地域に関わりながら、地域のことを把握していくうえで、重要。本協議会のような場を利用し、情報を共有することで、ほかの機関も参考に地域同士を結び付けていただくきっかけになる。また、地域も同様で、他の地域がやっていることを見て、とりあえずやってみることで少しずつ関心を持たない人が関心を持つようになる。</li> </ul>

### (5) その他（資料1の議題5 資料3を説明）

発言委員等	意見
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>今週土曜日に施設を開放して、ハンドマッサージをやった。地域の方との</li> </ul>

発言委員等	意見
	<p>つながりを緩やかだが広がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先日、中部市民館でふれあい交流会があった。数百人単位で、いきいきクラブのボランティアや中学生のボランティアなど、広い世代から参加があった。そこに駄菓子屋として出張出店した。その際に、防災で備蓄している尿取りパッドとリハビリパンツなどを販売したが、婦人会の方が「介護用品は、接する機会があまりなくハードルが高くて使い方がわからない。」と言われた。しかし興味がありそうだったので、試供品にして配布したところ、沢山の方が持っていかれた。もともと廃棄していたものを身近なものとして配布したことにより、地域の方の話を聞ける良い機会だった。知らないことは人と話さないとわからない。今回の協議会では、実際にインタビューに行かれてわかったことや、自分がふれあい交流会で感じたことから、まだまだ知らない資源が刈谷市内に沢山あると感じた。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンライン体操教室のPR</li> <li>・ シニア向けおでかけキャンペーンのPR</li> </ul>